

## 第一回ロールモデル講習会 報告

平成21年7月21日にコロンビア大学薬理学教授のPenelope A. Boyden博士によるロールモデル講習会を開催しました。内外から16名の参加があり、米国の女性研究者の現状や専門分野に関する有益な討論が繰り広げられました。

Boyden教授はWells Collegeをご卒業後、コロンビア大学でPh.Dを取得され、ロックフェラー大額でpostdoctoral fellow、コロンビア大学で助教、准教授、1996年から現職に就かれています。Boyden教授は、特に不整脈の電気生理的研究について著名な方で、不整脈領域では最も権威のある学会のひとつであるCardiac Electrophysiology Societyの会長前職をはじめ数々の専門誌の現編集委員を務められています。ご専門は心筋梗塞後の不整脈におけるPurkinje細胞の電気生理であり、数々の重要な論文を発表されています。

コロンビア大学の女性研究者の現状は、私の予想とは異なり、職位においてはあまり女性進出が進んでいませんでした。基礎医学では、女性の教授はほとんどおらず、薬学部でも二名のみだそうです。医学系では、医学部学生の女性比率は43%、Ph.Dは17%ですが、教授、准教授などのtenured positionを得られる女性はまだ非常に少ないとのことでした。

先生が教授になることができた要因については、ほとんど女性はいなかったが、男性のメンターがいたことが大きいというお話でした。そして、キーポイントとして「Overcoming the fear of success!!」とおっしゃったのが印象的でした。

Boyden教授らが行っている不整脈の学際的トレーニングプログラム(interdisciplinary training program in the molecular and genetic basis of cardiac arrhythmias)において、目的はその研究領域において、独立したリーダーシップになり得る人材を育てる事であり、各分野のスペシャリストをメンターとして選ぶことができる(Trainees may select mentors from a list of faculty each of whom directs a well-funded research laboratory specializing in one of these areas.)と明記されていました。このプログラムの最後にColumbia University is an equal opportunity employerとも書かれており、逆に、こうして書くことが必要な状況にある、ということなのだろうか、と感じました。

Boyden教授の研究領域である、心筋梗塞後の不整脈におけるPurkinje細胞の電気生理は、Caの関与が大きいとのことで、白熱した討論になりました。男女の参加者がおりましたが、講演の後で、Boyden教授は、質問内容に男女差が大きいのは、何故かしら、とおっしゃっていました。

今後も多彩なロールモデルにお話していただくことは、学問や人生の幅を広げることになるのではないか、と思いました。

